



—東地中海地域ニュース—

シリア：ダマスカス大学での事件

(12日付現地各紙)

11日にダマスカス大学で、学生グループが理学部前に集まり、バッシヤール・アサド大統領の指導による包括的な改革プロセスを支持したと報道されている。シリアからの報道では、政府批判デモと政府支持デモの両方が伝えられている。以下は、シリアのメディアが報道したダマスカス大学での学生たちの動き。

1. ダマスカス大学理学部長の発言 (12日付現地各紙)

ダマスカス大学のムハーシニー理学部長は、理学部の学生がデモを行った際に、学生1名が死亡したとする複数メディアの報道を否定、この報道は全く事実に基づいていないと強調した。同学部長によると、11日に学生グループが理学部前に集まり、バッシヤール・アサド大統領の指導による包括的な改革プロセスを支持し、シリアが享受している安全と安定を揺るがし、混乱を煽る試みを拒否すると表明する国家的スローガンを叫んだ。

2. 学生の証言 (12日付ワタン紙)

- (1) ダマスカス大学理学部では、50名近い学生が扇動的、宗派主義的なスローガンを繰り返しながら自由を要求、同学部のさらに多くの学生が集まり「アッラー、シリア、バッシヤール」というシュプレヒコールを上げるまで、5分近く叫び続けた。
- (2) 現場にいた学生たちによると、敵対的な計画に基づく隠された意図があり、その計画によって、「扇動、デモ、携帯による撮影」という役割の調整が行われていた。デモは約10名のグループによって構内で始まった。最初の叫び声が始まるとすぐに20~30名の他の学生グループが学部構内の低い塀を跳び越えて、デモに合流した。また一部はそのグループを囲んで撮影を行っていた。
- (3) このグループは、学生が彼らのシュプレヒコールに応えず、グループよりも多数の学生が祖国統一を叫び続けるのを見ると、空き瓶や石など手にあるもの全てを投げつけ始め、一部のものは棒で殴打した。学生の一人は、このグループによるデモは学部内での扇動を明らかに意図したものに違いないと述べた。
- (4) このグループのデモ参加者の多くの外見や衣服の古さから、理学部の学生である証拠はない。デモ隊の中にはイスラム法学科の学生がいた。衝突をやめさせようと大学の治安部隊が介入し、小競り合いを解散させ、学生を殴っていた者たちを数人逮捕したが、一部の者は逃走した。治安部隊が数分で小競り合いを解散させた後、学部内から「バッシヤールよ、魂と血をあなたに捧げる」と叫びながら、数百人の学生が表に繰り出した。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799